

研究テーマ 病院に勤務する20歳代看護要員の時間外労働の認識・特性について

病 院 名 医療法人社団健育会 熱川温泉病院

演 者 ○^{よこやま}横山あみ(看護師) 中嶋晴香(看護師) 中島由香(看護師)
橋本ひな(看護師)

概 要

【研究背景】

ワークライフバランスを実現し働きやすい環境づくりが推進され、時間外労働に対する個々の認識・価値観は多様化している。看護要員の時間外労働で年代に着目した先行研究はない。今後、病院で中心的役割を担う20歳代の看護要員の属性や時間外労働に対する考え方を調査し業務実践に繋がりたいと考えた。

【研究目的】

20歳代の看護要員の時間外労働に対する認識・特性について明らかにし、業務を实践する上での示唆を得る。

【研究方法】

対象者:9施設の急性期、地域包括ケア、回復期、療養病棟の20歳代看護要員182名

方法:独自で作成したアンケート調査

内容:属性11項目、仕事面7項目、協同作業認識尺度18項目

分析方法:1)アンケートと協同作業認識尺度を単純集計、

2)時間外労働時間と協同作業認識尺度をスピアマンの相関係数と χ^2 検定で分析(有意水準 $P<0.05$)

倫理的配慮:A病院倫理委員会で承認を得た。

【結果】

アンケートの有効回答は110名(88.0%)。現状の時間外労働に65.5%が満足し、日本人以外・経験年数3年未満に満足度が高かった。日本人・経験年数3年以上の約40%が時間外労働を「減らしたい」と回答した。全病棟の時間外労働要因は「記録」、所属病棟別では地域包括ケア病棟の「記録と入退院業務」に有意差があった。協同作業認識尺度では「協同効用」が約70%と高く、経験年数で差はなかった。看護要員の91%が職場に相談する人が「いる」と回答し、同僚、上司、プリセプターの順に多かった。

【考察】

現状の時間外労働の満足度が、日本人以外・経験年数3年未満の看護要員に高いことは、周囲のサポートが得られ、委員会などの役割が少ないためと考える。経験年数3年以上の看護要員は、看護ケア、後輩指導、委員会活動など役割拡大により時間外労働が増加し、満足度が低下すると考える。協同作業認識尺度では、仲間とともに作業することを好む傾向にあった。高山ら(2009)は「共に働く看護者が協力し合い、支え合って看護を展開していくとき、看護チームの一員である個々の志気は高まり質の高い看護実践につながる」と述べている。20歳代看護要員の時間外労働を減少させ満足度を高めるためには、業務を溜め込まず自らサポートを依頼する、すべての看護要員が声掛けを意識し業務調整を図る、通常の看護業務で補完体制を推進し負担感を緩和させる必要があると考える。

【結論】

1)20歳代看護要員の65.5%が現在の時間外労働に満足し、日本人以外・経験年数3年未満に満足度が高かった。
2)時間外労働要因は記録に有意差を認めた。
3)協同作業認識尺度では協同効用が高く、職場内には精神的サポート体制が存在した。
4)20歳代看護要員の認識・特性を活用した業務実践には、自他ともにサポートができる自主性を育て、補完体制を推進する必要性が示唆された。

【引用・参考文献】

1. 高山奈美他(2009),看護活動におけるチームワークとその関連要因の構造,国立看護大学校研究紀要,第8巻,第1号